

動物実験等の実施状況

(平成25年度)

研究所名	畜産草地研究所
------	---------

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 63 件		
小哺乳類			大中哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
マウス	4	689	ウシ	30	316	ニワトリ	7	3050
ラット	1	16	ブタ	9	275	ウズラ	2	410
ハムスター	1	1000	ヤギ	6	142	カラス	0	0
モルモット	0	0	ヒツジ	2	7	キジ	1	20
ウサギ	0	0	イヌ	1	16	爬虫類		
			ネコ	0	0			
			サル	0	0			
			イノシシ	0	0			
			タヌキ	0	0			
						動物種	件数	飼養数

2. 動物実験の主な内容

○ブタの離乳時産仔総体重等に関連するQTLの探索とDNAマーカーの開発

体重を測定した後、採血および皮下組織、筋肉、肝臓を採取し液体窒素で凍結してからmRNAの抽出を行い、後日マイクロアレイによる網羅的な遺伝子発現解析を実施した。また、LWDの母豚にランドレースの父を交配したLWDLを1腹生産し、胎仔85日齢から骨格筋を採取してコラゲナーゼ処理により筋芽細胞を単離し、クローニングによるブタ由来の筋芽細胞株の確立を試みた。

○中枢におけるセロトニン神経機能の強化によるウシの体温調節機能改善技術の開発

第3脳室内脳脊髄液中モノアミン濃度の測定により、環境温度の上昇に伴う視床下部(体温調節中枢)近傍における5-HT等の動態変化を明らかにし、また、末梢血中へのトリプトファン投与が高温負荷による体温上昇および内分泌反応におよぼす影響を明らかにした。さらに、ルーメンバイパストリプトファンの飼料添加給与により、トリプトファンの末梢血中投与と同様の生理反応が発現するか否かについても検討した。

○タウリン強化飼料の母親ラットへの給与試験

妊娠中の雌ラットに、タウリンを3%あるいは5%添加した飼料を、分娩後離乳まで給与した。対照区の雌ラットには市販の実験動物用飼料を給与した。妊娠19日目、出生後4週齢時と8週齢時に産子から筋肉を採取し、筋線維数と筋線維型構成を組織化学的方法で調査した。

備考

- の箇所には和暦を記載すること。
- 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種(上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。)ごとの件数及び飼養数について記載
- 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

動物実験等に関する自己点検及び評価報告書
(平成25年度)

研究所名 畜産草地研究所

1 所内要領

- a 規程に適合した所内要領が定められている。
- b 所内要領は定められているが、改善すべき点がある。

①改善を要する点

②改善の方針、時期等

2 動物実験委員会

- a 規程に適合した動物実験委員会が設置されている。
- b 動物実験委員会は設置されているが、改善すべき点がある。

①改善を要する点

②改善の方針、時期等

3 動物実験管理者

- a 規程に適合した動物実験管理者が置かれている。
- b 動物実験管理者は置かれているが、一部に改善すべき点がある。

①改善を要する点

②改善の方針、時期等

4 施設等の指定

- a 施設等は、動物実験委員会で審査され、規程に適合したものが適切に指定され、指定施設等においてのみ飼養管理及び動物実験が行われている。
- b 施設等の指定に関して問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

5 施設等の維持管理

- a 施設等は適切に維持管理されている。
- b 施設等の維持管理に問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

6 動物実験計画の審査及び実施

a 動物実験計画は、規程に従って適切に審査、実施されている。

b 動物実験計画の審査、実施に関して問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

7 動物実験の実施結果報告

a 動物実験の実施結果は適切に研究所等の長へ報告され、取りまとめた実施状況は理事長へ報告されている。

b 動物実験の実施結果の報告に関して問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

8 実験動物の健康及び安全の保持

a 飼養保管や輸送において、規程に定められた実験動物の健康・安全の保持の措置が適切に行われている。

b 飼養保管や輸送において、実験動物の健康・安全の保持に関して問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

9 生活環境の保全

a 規程に従い、施設等及びその周辺の生活環境の保全に努めている。

b 施設等及びその周辺の生活環境の保全に関し問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

10 人への危害・環境保全上の問題の防止

a 規程に従い、人への危害や環境保全上の問題が適切に防止されている。

b 人への危害や環境保全上の問題の防止に関し問題がある。

①問題点

②改善の方針、時期等

11 安全管理に注意を要する動物実験(遺伝子組換え動物、感染症等に係る実験等)

- a 安全管理に注意を要する動物実験について、規程及び関連法令に適合した実施体制が確保され、安全に実験が行われている。
- b 安全管理に注意を要する動物実験について問題がある。

①問題点
②改善の方針、時期等

- 安全管理に特に注意を要する動物実験は実施していない。

12 地震、火事等の緊急時の対応

- a 緊急事態に備えた措置に関する計画が定められ、緊急時の対応に問題はない。
- b 緊急事態に対する備え、対応に関して問題がある。

①問題点
②改善の方針、時期等

13 教育訓練

- a 規程に沿って、教育訓練が実施されている。
- b 教育訓練は実施されているが、問題がある。

①問題点
②改善の方針、時期等

- 必要な教育訓練が実施されていない。

○実施の方針、予定等

- d 当該年度には、教育訓練が必要な者はいなかったため、実施せず。

- 備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。
2 該当する評価結果の口に✓印を記入すること。
3 評価結果が「b」又は「c」に該当した場合は、当該評価結果の下の欄に表示している事柄について、当該欄にその内容を記載すること。